

議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係	合 議

福 祉 環 境 調 査 会 記 録

平成 29 年 11 月 10 日(金)
全 員 協 議 会 室
9 時 58 分～12 時 40 分

【委 員】 柳樂委員長、上野副委員長、村武委員、布施委員、芦谷委員、田畑委員

澁谷委員、西村委員

【執行部】 前木健康福祉部長、原田地域福祉課長、河上子育て支援課長

斗光市民生活部長、猪木迫医療保険課長、吉永金城支所長、塚田旭支所長

細川弥栄支所長、斎藤三隅支所長、河野上下水道部長、坂田管理課長

桑原下水道課長

【事務局】 三浦書記

議 題

1 執行部報告事項

- (1) 有福保育園の閉園（上府保育園との統合）について
- (2) 国保広域化後の保険料に係る第 3 回試算結果について
- (3) 水道料金改定について
- (4) 平成 28 年度末汚水処理人口普及率
- (5) その他

2 その他

【議事等の経過】

〔 9時58分 開議 〕

柳楽委員長

ただいまより福祉環境調査会を開会する。

それでは、改選後、初めての調査会となるので、委員と本日出席の執行部の皆さんからそれぞれ自己紹介をお願いします。

なお、本日出席されていない執行部の皆さんは、12月定例会の委員会をお願いしたい。

《 以下、委員並びに執行部出席者の自己紹介 》

それでは、会議に入る。

1 執行部報告事項

(1) 有福保育園の閉園（上府保育園との統合）について

柳楽委員長

この件について、子育て支援課長。

子育て支援課長

（ 以下、資料をもとに説明 ）

柳楽委員長

委員から質疑は。村武委員。

村武委員

私も国府で仕事をしている。有福の方から、有福保育園閉園の話にたくさんの方が驚いていると聞いた。上府保育園が今年度開設されたのだが、その際には有福保育園の閉園というのが決まっていたのか。

子育て支援課長

それはないと聞いている。園はもう少し頑張りたいというお気持ちだったが、先ほど言ったように、園児の減少が予想以上に深刻になったためということ。

村武委員

閉園決定後の保護者説明会と地区町内会長の説明会があったとお聞きしたが、そこには何名くらい参加されて、どのような意見があったのか。

子育て支援課長

保護者説明会については、10月13日に行われたと聞いている。ほとんどの保護者さんが参加されたとは思いますが、正確な人数は把握していない。中にはやはり、突然のことなので今まだ子どもがいるではないかという意見も確かにあったが、今後も地域行事への参加はしてくれるのかという意見もあって、それに対しては園は変わっても上府保育園として色んな所の行事へは参加するという話をしたところ、あとは個別の心配の声は園の先生がしっかり受け止めて、対応していただいている。あと町内の方は有福と大金の方の各町内会長さんなので、

合計 4 名の方に出席と、職員が 2 名出席し、園からの説明を受ける所だが、その中でも子どもの数が減っているし、有福とか宇野の方の地域の子どもが行っていない実態もご存じだったので、やむを得ないと。先ほどと同じになるが、今後も地域の行事にしっかり来てくださいますといった約束をした上で、納得されたようだった。

村武委員

私が国府にいた頃に見たり聞いたりする中で、この有福保育園は地域に密着した保育園だと感じていた。季節のイベントだけではなく、高齢者の方との交流活動や、自然豊かな有福の中で日頃から地域の方との交流があったと思っている。そういったことが人の成長の中で大切な幼時期を育んで行くのではないかと感じていたので、大変残念なことではあるが、そういったところも併せて今後も有福の方たちも、3 年後に小学校も閉校して、このたび有福保育園が閉園するということが子どもたちの声が聞こえなくなるということで大変残念がっておられるので、そういったところでも引き続き、有福地区の皆さま方との交流を続けていただくようお願いしたいと考えている。

子育て支援課長

今のお声は園に伝えさせていただきたい。

柳楽委員長

布施委員。

布施委員

私も有福保育園とは入園式、卒園式、生活発表会、運動会も随分行かせていただいた。市街地における保育園、学校もそうだが、子どもたちの声が聞こえるということは市が進めている元気な浜田づくりの 1 つの要因にもなっている。閉園は非常に残念だが、清和会さんが決められたということなのだが、ここで 2 点確認しておきたい。建物がある。土地もあると思う。小学校区の中に有福保育園がある。そういった場合の借地とか建物とか、協議をこれから進められるかどうかかわからないが、その辺の話は進んでいるのか。

子育て支援課長

有福保育園については、建物については既に無償譲渡ということで清和会さんに譲渡している。土地については市の借地になるので返還になるが、その辺りについては清和会さんと今話をしている。

布施委員

土地についてはどうするかということだが、地域の集会所とか色々あの辺には集中しており、公民館もある。使い勝手があるようで、建物ばかり多くなったりとそういう予定になってくると思うが、有効活用していただきたい。それと今後の対応として有福保育園の職員さん、約 11 名か 12 名くらいおられたと思うが、全て市の職員さんについては清和会さんの縁で配置換えするという考え方で良いのか。

子育て支援課長

おっしゃったように、職員はパートさんも入れて4月当初は15名くらいおられたのだが、今は既に今年度の園児が減っているため少しずつ他へ移ったりしておられるようだ。最終的に今おられる方は、これは町内会長さんとの話し合いの中で市からも再度確認したが、今おられる方については解雇ではなく配置転換ということは確認した。そうしたところ、本人さんの希望があれば別だが、園とすればどこか移っていただいて、出来る限り有福保育園の方はそのまま移管するので、出来たら上府保育園で顔を知っている保育士さんがいた方が子どもさんも親御さんも安心されると思うので、そういったことも念頭に置きながら、誠和会の中で雇用するということは約束してもらっている。

布施委員

安心した。園児も大変だが先生方も、清和会グループとしてはそうだが新しい所へ行くというのは大人でも不安があるし、子どもとのコミュニケーションをとるのに、有福保育園で看られていた先生がある程度おられると安心かと思う。安心した。

今月25日が有福保育園最後の生活発表会になると思う。御案内があった。子どもたちが地域に根差した行事に参加されたり、周りの方がこの生活発表会を非常に楽しみにして、また清和会はマーチングバンドとか和太鼓、石見神楽の発表を結構この生活発表会の中でされる。そういった光景が見られなくなるのも寂しいが、上府保育園も地域に根差したそういったものをされているので、是非、市側としても村武委員が言われたように、反対に地域に出かけて行って、地域との密着が図れるように市側がバックアップしていただきたいと思う。そういった考えをしっかりとやっていただく。先ほど村武委員の時にも言われたが、再度お伺いする。

子育て支援課長

両議員のお気持ちはしっかり園に伝えながら、市としてもどういうところまで出来るか分からないが市としてもパイプ役になっていきたい。

柳楽委員長

渋谷委員。

澁谷委員

清和会という社会福祉法人は、浜田市の保育事業においては一番先進的な法人ではないかと認識している。先進的だからこそ浜田市保育連盟から追い出されていらっしゃるのだらうと思っている。その清和会がこういう判断をされたのには、それなりの理由があるのだらうと思う。そういった中で今後の建物の処分の仕方というのか、いま説明があったが、無償貸与して地域に譲渡するというのは、どこも受け手がないという流れだと思うが、その中で更に、無償譲渡なのだが最後

	<p>の解体も責任を持つという流れが、公共施設の再配置の中で進んでいるように思う。この物件についてはどうなっているのか。</p>
子育て支援課長	<p>市としては土地を返すということがあったので、その上に建っているものは出来たら解体して、という形で話は進めようとは思っている。</p>
澁谷委員	<p>その費用の案分の仕方はどうなるのか。</p>
子育て支援課長	<p>現時点で市で考えているのは、一応譲渡しているので、園の方でお願いしたい。</p>
澁谷委員	<p>一応、財形法定上の考え方からするとそうなるのだと思うが、大きな流れは、結構最新の処分については行政がきちんと面倒を見るという流れが出来つつあるように思う。そういう負担をかけることで今後の経緯にマイナスにならないよう、十分話し合いをしていただきたい。</p>
柳楽委員長	<p>他に。芦谷委員。</p>
芦谷委員	<p>澁谷委員の質問に関連してなのだが、浜田市保育連盟への加入の件で、相当、恐らく半分くらいしか加入していないと聞いている。浜田市保育連盟への加入状況について伺う。</p>
子育て支援課長	<p>何園というのが即答できないが、誠和会の保育園がかなり多いので、2分の1強といったところかと。全部で28園あるが、そのくらいではないかと思われる。</p>
芦谷委員	<p>これについて5年くらい前に質問したことがある。というのは、浜田市の保育行政を束ねる組織なので、出来れば全園加入して、場合によっては保育園間の連携とか色んなことが出来ると思うのだが。今聞くと、その時の答弁で「是非近いうちに全園加入させる」という内容があったのだが、それを聞くとあっちもこっちも脱退されたということがある。これについて市としての気持ちやお考えがあれば伺う。</p>
子育て支援課長	<p>市としてと言われ……私もまだ勉強不足で申し訳ない。ただ、今それぞれ考えも方針も色々違う所もあるし、認定こども園という新たな保育制度も出来た中で、市側から無理に束ねて1本にというのはできにくい状況だとは思う。ただ、園長会という所で全園の園長先生と話をする機会等は設けているので、市としては全部の園から公平に色んな話は聞いていきたいと思っている。ただ、どうしても保育連盟ということになると、保育園側の考えがあるので、難しいのではないかとと思う。</p>
芦谷委員	<p>私の5年前の答弁があって、やはり民間保育園が束になって、場合</p>

によっては色んなことで行政への要望活動もあるだろうし、是非行政側で組織化を進めるというのが良いと思うのだが。民間保育園の考えに任せるのは少し物足りない。

柳楽委員長

その他。西村委員。

西村委員

1 点目は、保育所設置計画というか定員計画というか、それと市との関係で、定員増減計画も含めて今回は廃止というのが出されているわけだが、園の改廃も含めた計画というのは、市との関わりはどのように考えたら良いのかが分からない。要するに清和会さんが今回有福を閉園されることについて、もちろん事前に相談はあったのだろうとは思いますが、そのことと浜田市との関係、要するに定員計画というか、子どもの入所状況から見た時に、その閉園が果たして妥当と思われるものなのかそうでないのか、判断に基づいて新設や閉園についてどう関わっていくものかというところが、基本的な考え方として自分自身がよく解ってなかったと思うので、そのことについてお尋ねしたい。

もう 1 つは単純なことだが、この有福の 30 人がそれぞれ長沢と上府に移動となっているが、それぞれ増えることによって長沢は定員が何人になるのか、上府は何人になるのか。増えた後の定員数について教えていただきたい。

子育て支援課長

仰ることはよく分かった。長期的に定員を何人に決めているかは私も資料を持ち合わせていないので分からないが、今回の有福については、それぞれ今後もだが、皆さん民間でやっていただいているので、うちの方で例えば今後、閉園したいという話があった時にそれを阻止することは出来ないとは思いますが、ただそれがその地域にとって大変なことになるだろうとか、定員に大きな影響を及ぼすようなことであれば、もう少し違った方法でアプローチしていかなければいけないと思う。今回の有福についてはしっかり話を聞かせてもらったが、今後の計画も園の方でしっかり、その分他の園を充実させていって保育の質を上げたいということを言われたし、地域の理解も得られたので、市も已む無しと判断した。ただ市が今後どこまで保育園の運営に入っていけるかは、今は明確な回答が出来ない状況である。しかし、そういう話が出た時には、ひとつひとつきちんと対応して、本当に市としてそれが望ましいものかどうかを判断して対応していかなければならないと思っている。

もう 1 点についてだが、長沢保育園は 120 から 130、上府保育園は

60 から 80 と伺っている。

西村委員

1 点目は分かったが、要するに新設する時、去年は相生に 1 つと上府に 1 つ、それは需要予測に基づいて市の方がこれでは足りない、待機児童を解消できないというところから市が法人にそういう話を持って行って、市が主体的に動いて新設へ事を運んだという経緯ではないかと勝手に想像している。逆に今回は閉園で、2 園に振り分けということだろうと思う。閉園の時には市の意向に基づいて計画を実施していくのか、そうではなく単純に法人の意向に基づいて市が追認する恰好なのか。その辺の考え方がよく分かってなかったと反省したので、どうなのかを聞いてみたかった。本来どうなのか。

健康福祉部長

私も勉強不足ではっきりしたところがなかなか言えないのだが、総合振興計画の中に、認可保育所の定員数の増加という目標値を設定している。平成 33 年度には 1955 人にするという目標値を設定しているので、子どもの……次世代か子育てか、何か計画があるが、こちらの方である程度人数等は推測する、あるいは見込んでいてこういった計画という目標値を設定しているのだと思う。ひとつ大きな目標として待機児童を出さないことを掲げていたので、現在おかげ様で待機児童ゼロの状態。それがまず 1 番にあった、とは言いながら民間法人さんがされることなので、市としてどこまで……支援はもちろん色々制度は持っているが、法人さんが最終的に決定されたことに対して、特に経営に関してはなかなか言いにくい所があるのだろうと思っている。とは言いながら一方で待機児童を出すわけにいかないのも、異動の所ではまたご支援をいただかなければいけない。お願いはしなければいけない部分もたくさんあると思う。答えになってないかもしれないが、その辺のバランスを取りながら、究極は待機児童を絶対に出さない方向で話をしていくのだろうと考えている。

西村委員

要するに子ども子育てのシステムの計画の中で、そういったものを出すというのは分かっている。それに基づいて市がアクションを起こすから法人がそれに応えて、「それならうちが新設しようか」とか、そういう動きになるのか、近年子どもの入所申し込みが増えて大変な状況にあるので、法人が状況を踏まえて自らやっていくやり方なのか、そこが見えないからどうなのかが知りたかった。

子育て支援課長

答えになっているかどうか分からないが、園側から「こういうことをしたい」というアプローチがあることもあるし、市側から「こうい

うことを今後して欲しい」と投げかけることもある。一方的にどちらからどちらへというような方向性はなく、両者からのキャッチボールの中で進んでいっているのではないかと思うのだが……答えになっていないかもしれないが。市がカチッと決めて「こうするのでこうしてください」とだけを言うわけでもなく、保育園側から増員したいとかもう1個増やしたいと言ってきたのを市が全部認めていくというわけでもなく、先ほど部長が言ったようにバランスを取りながらという、分かりにくいがそういったところではないかと思う。

西村委員

恐らく市がイニシアチブを取るべきなのだろうと思う。それがないと計画を作る意味がないのだから。法人は全体が見えるわけではないので、そのために市が計画を作って、例えば「この2、3年の間に120人規模の新設が必要なのだ」と言って法人の挙手を募るような働きかけの中で、去年2つお応えいただいて作られたという流れなのではないかと思う。そうすると逆に閉園の時にはどうなのかという疑問を持ったので、そのことについてお聞きしたかった。私も質問しながら自分の疑問点がまとまった。

柳楽委員長
澁谷委員

答弁はよろしいか、はい。その他。澁谷委員。

先ほど「保育連盟」という言葉が出た。今の浜田市は保育連盟や保育に対してどういうマネジメントをされているのかが見えてない。現実的に、みなと、長沢、上府、国分、旭、日脚、周布、美川という、かなり大きな入所者数の園が保育連盟から脱退している。にも拘わらず毎年担当課長も出席される意見交換会をこの福祉環境委員会は要求されて、話し合いをしている。その時にいつも補助金を増やしてくれという話とか、保育士がなかなか見つからないという話を毎年聞く。ではお宅の園は保育士さんに対してどのような待遇、賞与、退職金積み立てを行っておられるかと聞くと、それは園の個別の問題だからと答えてもらえないような保育連盟。要するに自分の都合の良いことだけをお願いされるようなことなので、僕はフラットに経営手法も見えてないのに、経営努力をどこまでやっておられるかも見えないままで、行政に補助金の増額だけお願いばかりされるような会に毎回出席するのが僕はもう苦痛だ。しかし案内があると責任として出なければいけないのかなと思って断り切れない思いが出てくる。それに対し行政側も保育連盟と保育園とのあり方をどうしていくか、同僚議員の指摘を聞くと、きちんとしてもらわないとどうなのかなと。我儘な

保育園連盟に惑わされても僕らも困ると素朴に思う。行政はどこまでリーダーシップを取られるのかをある程度決めていただかないと、ちょっと付き合いきれない。子育て支援は充実しなければならないと思うてはいるが、それは子育てをされている保護者や園児さんに対して手厚くして、それが少子化対策として出生数が増えていくということであって、我儘な園のために税金を投入したいとは僕は思っていない。直接的に還元したいと思っている。だから保育料無料化の事も出している。そういう中、担当部長は今後どのように保育行政を進めていくのか。この辺についてはもう少し明確に方針を示してもらわないと。今日は調査会なのだから特に。議案審議ではないので、聞いても良いかなと思って聞くのだが。お答えをお願いしたい。

健康福祉部長

我儘な保育連盟という言葉を使っているが、私どもは特に我儘だとは思っていない。連盟としての色んなお考えを私どもにぶつけていただいているのだろうと思っている。決して我儘という認識は全くないのでご理解をお願いします。

言われたように、連盟に入っておられない法人、私が知ってる限りでは2法人だと思うがいらっしゃる。色んな経緯があって脱退されたようだ。確かに芦谷委員が言われるように保育連盟として1つにまとまるのも色々なメリットがあるかと思うが、逆に脱退された経緯があるので、その辺は市として言いにくい所もある気がしている。

保育園と市との関係だが、これまでは待機児童を出さないということと、保育園の質の部分の充実をしていかねばならないということで、色々進めている。市と保育園とはどういうスタンス、どういう関係かということについては、私どもは保育園の質の向上と言ったことに関しては、出来る限り応援していきたいと思っている。経営部分については難しい、言いにくい部分はあるが、子どもたちのためになることなら、出来る限り応援していきたい。

柳楽委員長

その他に。

(「なし」という声あり)

それでは、この件を終了する。

(2) 国保広域化後の保険料に係る第3回試算結果について

柳楽委員長

この件について、医療保険課長。

医療保険課長

(以下、資料をもとに説明)

柳楽委員長
布施委員

委員から質疑は。布施委員。

28 年度よりはマイナスになるが、資産額が減少した主な要因として医療費推計が減少したとのことだが、国保に関わる医療費が高いと保険料も上がっていくことは十分知っているが、元同僚議員が、医療費が高い原因を調べるべきではないかと、私が委員外議員として傍聴していた際に意見したのを聞いた。その時は部長が担当課長に、その原因を調べるようにという指示を出されたと思う。裏面を見ると浜田市の医療費指数は県下で 3 番目に高いということだ。この原因は調べられたのか。

医療保険課長

浜田市の国保の医療費が高い原因というか、その理由としては、入院等が高いということではなく、外来受診件数が他と比べると高い。その理由を今後調査して、受診回数について検討していく必要があるとは検討している。

布施委員

外来の受診回数が多い、ということは何かしらの要因がある。それ自体の要因は調べられずに、初診が高いから保険料が高いというのが今の答弁だと思うが、そうではないのだろう。加工食品を一杯食べるとか塩分が多いとか、そういった健康寿命や平均寿命の差が、今の保険料に反映してくるのだということは全国的にも言われている。そのものをしっかり調べない限りは私は保険料を、色んな激変緩和をしても将来的にはどんどん上がっていくのではないかと危惧している。健康寿命と平均寿命の差を縮めることによって医療費が安くなるというのは出ているわけだから、その辺の原因を追究するのが、担当課と、医療課の部分として仕事ではないかと思うのだが。

医療保険課長

浜田市で一番多い疾病は統合失調症で、二番目がガンや高血圧症だという統計が出ている。糖尿病も多くなっている。それに付随して透析患者が増えてくる。透析患者が増えてくると年間医療費がすごく多くなるので、そこが大きな原因になっていることは色んな医療費の推計で出てきている。先ほど布施委員が言われたように、そのことになる前段の理由としては、塩分がすごく高いものを食べておられるとか、そういうのは今からアンケート等を取った結果をもとに出てくるところになるので、もう少しお待ちいただいたらと思っている。

布施委員

アンケートで実質を調べるということで、それが出てきた時の対策もしっかりやっていただきたい。ちなみに浜田市の平均寿命と、男女の平均寿命の差は出ているのか。

医療保険課長
布施委員
柳楽委員長
澁谷委員

データヘルス計画、及び健康増進計画において出ているが…
後でも良い。
その他に。澁谷委員。

島根県 19 市町村の保険料率のかけ方は、まだ自治体によっては 3 割が残っていたり、一定ではないと思う。その辺については各自治体に任せられたのか。

医療保険課長

今回の第 3 回においては今年度資産割りがある所もあるのだが、平成 30 年度において、資産割りはなくなる。今試算が出ているのは保険料の 1 人あたりの必要額なので、これを標準保険料率として取ってこられるのは、応益応能、その中に資産割りがあったりということになるので、県はそこまでは表示していない。軽減前の 1 人あたりの保険料、必要額ということで、29 年度だったらということで今回必要額を試算された状況。

澁谷委員

これまでも県内統一すると事務量は減少するのだよねという質問に対して、「いえ事務量は増える」という答弁をいただいている。そうするとソフトを作る側からすると県内 1 つにした方が良いわけなので、資産割りを廃止してきちんと全県統一したソフトを 19 市町村全部が使えるようにしなければ、事務量コストが下がる要素はないように思うのだが、そういう話し合いは進んでいるのか。

医療保険課長

統一保険料にいくまでには、まだ段階的に踏んでいくという運営方針が出たのでまだそこまでいっていないのだが、事務の統一については全県下で協議中。しかしシステムを一緒にするといった話は出てない。県が全国レベルのシステムでこういう計算をして、それを各市町村の保険者に提示して、各市町村の保険者はそれに基づいて保険料率を決定する。ただし県は標準保険料率は提示することになっている。

澁谷委員

別々のものを統合するには、それを運用していくには時間が少し必要だという考え方も理解できないことはないのだが、今の日進月歩の人工知能の時代になってきているような時においては、一気に出来るのでは、やった方がコスト削減に繋がるのではないかとということを素朴に思う。そういうことがまた行政の経営に対する影響……何のために統一したのかが見えにくくなる。何年後には統一するとか、もう決まっているのか。

医療保険課長

何年後かというのは決まっていない。今後いつに向けて検討するかを、この 6 年の間に検討しようという話になっている。何年後という

のもまだ今回の県の運営方針の中には入っていない。

澁谷委員

浜田市は積極的に、3年後にはやりましょうとか、2年後には統一しようという声を出さないと、統一するメリットが非常に見えにくい。財政基盤の弱い自治体をただ救済するだけになってしまって、コストを抑えられるということは、ひいては、今国民健康保険料の制度設計が完全に崩壊している中においての加入者の保険料率を下げていく努力にも繋がっていかないように思う。浜田市側もきちんとしたビジョンと目標がいるように思うのだが、課長の話聞いている段階では、まだ体制に流れたままの中で様子見という印象しかない。部長はどういう方針を持っておられるのか。

市民生活部長

確かに澁谷委員が仰るとおり。何のために県で統一するのか。浜田市としても早く、いついつに県下統一するという所を出してくれとは主張している。それに向かって色んな努力をしていかなければいけないと思って作業を進めている。ただ、県下にこれだけ保険料のバラつきがあると、全ての市町村が統一化に向けて賛成というわけではなく、なのでいつまでに統一ということも方針として打ち出せないという状況である。ただ早かれ遅かれ、この国民健康保険という制度がもう破綻しかかっているので、運営を1本化して規模を大きくして、お互いに補う、助け合うような仕組みを早く構築しないといけないということは分かっている。浜田市は一刻も早く、統一に向けた方向性を進んでくれと、今後も県に主張していきたい。

澁谷委員

今の数字の中でいくと、現状の浜田市の保険加入者の方、最高が79万だったかな。そういう方がこれ以上上がる恐れはないというマイナス理解で良いのか。

医療保険課長

法的に限度額が決められているので、今年度まだ変更があるとは聞いていないので、変更はないため、料率は変わっても限度額は上限で止まる。

澁谷委員

最高限度額は上がらないということは分かった。あと働き盛りの30代、40代、50代の自営業者の保険料は上がる可能性があるのか。

医療保険課長

今回は29年度の試算なのでそれをお答えすると、だいたい28年度に浜田市がかけた保険料と29年度の保険料は率が同じ。634円下がると出ているが、浜田市独自の保険事業もやっているの、それを入れると良い保険料を賦課している形に、今はなっている。

今回は試算の「事業納付金」を載せさせてもらっているが、島根県

全体の所得が、全国を1とした場合低いというところから、応益応能の部分が46.54という計算で、標準保険料率が作られているので、ここが今後どうなってくるかという協議も必要になってくると思っている。

澁谷委員

ということは単純に言うと、統一するまで、急激に値上がりすることはないという理解で良いか。

医療保険課長

30年度以降、28年の決算を主軸にして急激に保険料が上がる所、今回の裏面を見てもらうと分かるが、知夫村が2万4000円上がることになっているが、予算が今1200億円公費を入れている。残りの500億円全国レベルであるので、それを配分したものを激変緩和に使うことになっている。激変で上がった所には県から納付金についての補正が出てくるので、大幅に上がるということは無いようになっている。

柳楽委員長

その他に。西村委員。

西村委員

県全体のいわゆる事業費納付金はいくらなのか、これでは全く見えない。その中で浜田市は14億8500万というのは分かるが、全体が見えないのでどのように配分されたかが見えない。結論だけは標準保険料という形で1人あたりの保険料が見えるのだが。私が以前一般質問で聞いたのは、そういう算定のプロセスが私らにはさっぱり見えないということを指摘している。何故それを示さないのか。要するに市町村にも分かってないのか、市町村は分かっているのだが我々に提供する資料をこれだけに抑えているのか、その辺が私にはよく分からない。言いたいのは、もし示されていれば示すべきだということだ。

医療保険課長

公表されたものの中には今出したものしかないが、市に対しては全体の納付金の試算がこういう試算なので、それぞれの市町村に対する納付金はこうだという一覧表は来ている。

西村委員

県から来た分を全部くれても、多分とても膨大なものなのだろうから取捨選択は基本的にお任せしたいのだけど、いずれにせよこの標準保険料を算出する過程が見える資料は絶対必要だと思うので、それは事後に提出をまずお願いしたい。

2点目は裏のページの、収入と支出に分けた絵がある。所得が、全国を1とした時に島根県が0.855何かということと、応能応益部分を46と54部に分けたことに相関関係があるように受け止めたのだが、そこを説明して欲しい。

医療保険課長

本来、応能応益、今までは1対1だったが、全国レベルの所得から

言うとは島根県の所得水準は 0.85、それを単純にパーセントで表すと 46 になるという計算になり、46 対 54 という計算で賦課をかける時には、標準保険料で計算してくださいというのが国からの指示で、県は試算をしている。島根県の所得水準が 0.855 というのが 27 年度の計算になるので、順次変わっていくかと思う。所得が高い所はここが 1.1 とか 1.2 になるので、応能応益分の判定が多くなったり少なくなったりする。その理由としては、応益部分については軽減措置があるので、そこから所得の少ないところはこちらを多くして、軽減を多くして補助をたくさん入れるというところもあるし、所得水準の低いところにいくら保険料率をかけても収納が出来ないところもあるので、単純にこういう計算。浜田市がこれにするという協議は一切していないが、一応こういう試算が国から来て、県の方が知ることになる。

西村委員

0.855 というのが、今の 50・50 を案分すると 54・46 になると。私の計算が間違っているのか、そうならないと思って聞いたのだが。後で再度計算してみる。

もう 1 点、一番下の表について。左が支出で右が収入となっていると思うが、保険料で集める額、11 億 6700 万円。これが要するに保険料になると単純に理解して良いと思うが、そうすると 29 年度当初予算で言うと、国民健康保険料の 10 億 1100 万と、一般会計からの繰り入れ 1 億と基金からの繰り入れ 1 億ということで、12 億 1100 万を当初予算では保険料収入ということで弾いた、いうものがこの試算によれば 11 億 6800 万くらいか、にイコールだという捉え方をすれば良いのか。

医療保険課長

予算の方、29 年度の方は医療費試算がきっちり増減するのではなく、前年度水準でそのまま。予算的にはある程度余裕がないと払えない部分が出てくるので、その部分が 5000 万という差で、給付金のところで出てきている。

西村委員

医療費との関係でもう一度説明を。

医療保険課長

30 年度からは県に対して納付金で医療費を払うことになるので、それが高くなると保険料も高くなる形になる。今回の第 3 回の試算も含めて、県が試算する医療費についてはきっちり水準どおり、下がったら下がったとおりの、きっちり払える予算しか今のところ予算立ては出来ないなので、そのようになっている。ただ浜田市の給付費の予算については、ぴっちり立てた上で今後の……。

西村委員
医療保険課長

余裕か。

はい、給付費の上昇があった時に払えなくなるので、その方を見ている。そういうところが今回、県広域化に基づいては県全体で見るのでそういった予算を付ける必要がないというのが広域化のメリットの1つでもあるので、

西村委員
柳楽委員長
医療保険課長

解った。

その他。医療保険課長。

先ほど健康寿命について質問されたので、浜田市の平均寿命と健康寿命を。男性と女性があるが、平均余命という形だが、65歳以上の方が何歳までということは、男性84.02歳、女性は89.08になる。健康寿命は男性が81.77、女性が84.74になる。65歳からの平均余命と平均自立期間となる。

柳楽委員長

では1時間経過したので、暫時休憩する。再開を11時25分とする。

〔 11 時 15 分 休憩 〕

〔 11 時 25 分 再開 〕

柳楽委員長

委員会を再開する。

(3) 水道料金改定について

柳楽委員長
管理課長
柳楽委員長
澁谷委員

この件について、上下水道部管理課長。

(以下、資料をもとに説明)

委員から質疑は。澁谷委員。

これまでも水道料金は簡易水道の統合に伴って値上げは致し方ないだろうということはあったと思うが、これまでもただ値上げだけでなく、その時にはきちんとした身を切る改革も併せて行うのだという答弁が繰り返されて、いつだったか、関西学院大学の先生が財政か何かの勉強会で来られて、浜田図書館で講演や研修があった時に、当時の浜田市水道部長が説明をしたことがある。その時にも身を切る改革を併せないと市民の理解を得られないのだという言葉もあって、それ以降今までもずっとその言葉が出てきているのだが、工業用水道の二人分の人件費を同僚議員がずっと指摘していたが、それについての回答も、いつも事務量調査をしているとかいう訳の分からない答弁でずっと来ている。その辺についてまずどのようなことになっているのかと

ということと、併せて、水道料金を値上げするとなるともう1つ、浜田市は老朽管の更新も併せてやらないと、本当の意味での市民の皆さんへの安心安全な水の提供は不可能だと思う。来年までに更新計画もきちんと出るのか、その2点をまず伺いたい。

管理課長

まず1点目のご指摘だった「身を切る」についてだが、職員人員については、この値上げに至るまで非常に削減を続けてきた。この10年で言っても上水道で12人、簡易水道で6人減らしている。それでも財源的に厳しくなるということであれば固定費部分は積極的に見ていかなければいけないのは当然のこと。具体的に人数で申し上げることは出来ないが固定費の圧縮は第一に考えなくてはいけないと思っている。例えば事務を委託する問題だとか、それに伴う窓口統合等も加えて整理していかななくてはいけないと思っている。実際には2年ほど前に窓口民営化についても検討されたことがあるが、下水道事業の進捗具合も含めて少し整理していかななくてはいけないと思っている。

2点目の工業用水道については、事務量調査の結果を見てというのを枕詞のようと言われてきたが、整理した上で、来年度の予算に反映させていこうと考えている。そのように整理させていただいている。

老朽管の更新については、今回値上げの中に、将来的にどのくらいずつ経費がかかるかということ、概ね6億円程度の更新経費が必要だろうと考えている。これは上水道と簡易水道それぞれあるが、その中については単純に耐用年数において更新していくということであれば、当然この金額では足らなくなるので、しっかりした計画を、上下水道部の中で管理課と工務課で、そういうことを含めて効率的な更新の計画をしっかり立てて進めていくようにしている。

澁谷委員

6億円という言葉が出たが、現状浜田市は毎年3億円ずつ老朽化の更新に予算を使っている。今後も毎年6億円使うということか。

管理課長

上水道と簡易水道部分があるので、それらを最終的に更新経費として見込んでの計画を立てている。

澁谷委員

では6億円を毎年使って浜田市の老朽管を新しいものに変えるのに、何十年かかるか。

管理課長

数字を持ち合わせていないのだが、水道管の耐用年数は概ね80年なので、それでも80年では更新しきれない経費だと思うので、単純に耐用年数ではなく中身を精査しながら変えていくことになると思う。

澁谷委員

コスト削減ということで、実際のところコスト削減しろとばかり言

っているわけではないと同僚議員も思っていると思う。安全安心な水の提供を犠牲にするほどコスト削減をしろと言っているわけではない。ただ、そこに 2 人の余剰人件費があるという指摘に対して水道部は、丁寧できちんとした説明をしたことは 1 度もない。それでいつも事務量調査と何年間も言ってきた。そのことに対する回答もしないままに来年から水道料を上げると。そんな理不尽なことと言うか、行政の責任を果たしてないような仕組みは極めて疑問に思うのだが、それはどう思われるのか。

上下水道部長

ご指摘の点は我々も十分対応していかなばいけないと思っている。特に現状認識としては、上水で言うと、毎年使用料収入が 1000 万近く減少している。それは人口減少が 1 番大きな要因だと思っている。毎年 400 から 500 人ほど人口が減っているとなると、水を使ってもらえる人がそれだけ減っているわけなので当然のことだと思っている。そういうことを踏まえると、今後も予測では人口が減っているということなので、引き続き収益が落ちていくことになる。従ってそれに耐えうる経営体質を作らないといけないと思っている。そのために具体的に何をするかは、今までの状況をご存じだと思うが、今後固定費削減に向けた色んな努力はしていこうと思っている。その 1 つは、今県全体で広域化に向けた協議も検討されているが、全戸的に広域化、あるいは官民共同とか、そういった検討研究が全国的に進んでいるし、そういう協議も県内では始まっているので。いわゆる民間委託ももちろんあるだろう。あるいは広域化ということ言えば近隣の市町統一で経営を閉めようと。そういった議論もこれから出てくると思うが、色んな形で安定ケアできるように研究・検討は始まっているので、しっかり議論していきたい。

柳楽委員長

12 月定例会で上程ということなので、事前審査にならない程度でお願いしたい。

澁谷委員

事前審査どころか基本的な考え方を聞いているのであって、何を言っているんだ。それなら出さなかったら良かったじゃないか。当然調査会なので質問する。何のために開かれて市民の付託を受けていると思っているのか。

今の部長の答弁の中で、人口が 400、500 人減っていると言われた。それは 10 年前の話だろう。今 700 人だよ毎年人口減少しているのは。正確に言えば 698 人かな。もう 700 人だろう、8 月末現在だと。そう

ということもきちんと捉えておらずに、人口が減っているから水道の使用料金は減る。老朽管があるから漏水がどんどん増えているということを指摘したぐらいではないか。僕らが何も知らないとも思っているのか。要するにあんたは原因が出てないということだろう。数字をきちんと捕まえようとしていない。それで調子の良い答弁をされても、それを信じるわけにいかない。同僚議員が何回、工業用水道の予算委員会・決算委員会で質問したと思うのか。それに対して貴方、正確にこうこうだという答弁を1度もしたことがない。それで今後はこうこう検討するという答弁を聞いて「はい分かりました」と言えると思うのか。特にまた事前審査だとか何だとか言うなら出すなよ調査会に、こんな説明書を。その時に出せば良いではないか。答弁を求めたい。

上下水道部長

数字的な話は正確ではないというご指摘もあったが、認識としては持っている。具体的に示せないかというご指摘もあったが、先ほど申し上げたように、色々なことを検討はしている。しかし今現在、例えばいついつからこれをするというものがお示しできないのは申し訳ない。今後安定経営を継続していく色々な対策は考えていくつもりなので、そこについてはご理解いただきたい。

田畑委員

この問題については以前から一般質問で色々な議員が質問されてきている。そういった時に、上水道は40数パーセント、三隅の簡易水道は30数パーセントという数字が出ており、色々努力した結果が合意しなさいという数字になったと思う。これを3年間かけて激変緩和で値上げしていくということなのだろうが、例えば浜田の場合は10パーセントずつ3ヶ年でやるとか、具体的な考えはあるのか。

管理課長

具体的には、概ねの考え方は3分の1程度と考えているが、先ほど説明する中でも、口径等によっては現在もだいぶバラつきがあるので、それをそろえていく過程では少し差がある、激変緩和率については差が出て来ざるを得ないと思っている。

田畑委員

一般的な判断をされていると思う。これは普通の一般家庭ではほとんどの方が13ミリだと思うのだが、激変緩和すること、値上げすることに対して、市民の皆さんにどう周知するか、良し悪しは別として、周知の仕方はどのように考えておられるか。

管理課長

考えられる方法を使ってと思っている。例えば今まで使っている広報紙、ケーブルテレビ、チラシ等はもちろん、例えば地域協議会に説明に行こうと思っているし、また、何等かの形で検針の折にそれぞれ

検針票を入れるので、それに合わせてこういう形で変わっていくとご説明させていただき、ご理解いただけるよう努めていきたい。

田畑委員

是非ペーパーではなく言葉として、地域協議会に出向いていって、十分な説明をして理解を求めるような手順を取っていただきたいと思うがどうか。

管理課長

そのように考えていきたい。

田畑委員

先ほど澁谷委員が言われたが、老朽化、耐震化されていない管路が大変多くあって、100億やそこらでは終わらないような事業だという資料を、以前いただいたことがある。現段階ではとても10年20年50年では終わらないような金額見込みだった。それを整備しないと漏水の問題が解決されない、水を送っても送ってもどこかで漏れているという状況だと思う。それを含めて担当課として方針は示していかないと、市民の理解が得られないと私は考える。以前は老朽管は80キロくらいあったと思う。100億超えたと思うが、それだけかかるような数字があったと思う。間違いかもしれないが相当な費用が掛かっていることも踏まえて。人口は減るわ利益をある程度出さないといけない部署になるので、そういったことも踏まえて検討していただきたい。

柳楽委員長

他に。西村委員。

西村委員

これまでにいただいた資料を振り返ってみたのだが、簡水を上水に統合することに関わって、いわゆる全体像というか、資料提供を含めて説明があったのは、私の綴じ忘れがなければ26年12月に簡易水道事業の上水道事業への統合に係る課題についてということで、11ページにわたって資料提供を受けた上で説明があったように記憶している。それ以後、私は綴じてないので多分資料提供も、総合的な説明も体系的な説明もなかったのではないかと思う。是非12月に値上げの提案をされているということなので、これまでのご苦労も含めて、それを説明するにふさわしい資料をまず提供していただくことを、1つお願いしたい。

もう1つはそれに関わって、その時にお尋ねしたいのは、要するに簡水を上水に統合することで会計が変わるわけだから、大きな変更点を収支の観点で見た時に、収支を圧迫する要因として大きく挙げられているのは減価償却費の問題が1つあって、その時には資産総額が200億円で減価償却費が年に4億8000万と書いてある。今その計算

は変わってないのかについてお尋ねしたい。

それと一般会計からの繰入金、赤字補填がなくなるということで6000万、合計5億4000万の収支不足が発生するということで書いてある。この点が現時点で計算した時にどうなのかについて1点お知らせいただきたい。

もう1点は、値上げ抑制策案についての中で、経営努力によって7億4000万円の利益を確保するのだ、その結果60パーセントの値上げの所を、その当時45パーセントの値上げに抑制すると説明がある。今回はもっと低いわけだが、経営努力による7億4000万との関わりで言うと、今それはどの程度なのか。今説明できなければそれでもいい、もし分かれば教えていただきたい。

管理課長

まず1点目の資料の件。平成26年12月以降の資料となると、例えばこのようになりましたと1ペーパーで経緯を説明している形のものが続いていたと思うので、やはり12月にご説明するにあたってはそれらも含めて、今更ということでもないが、そもそもがこうだというきちんとした資料を準備してご説明させていただきたいと思う。

2点目の経理の問題だが、これは若干の数値の差はあると思うが考え方は変わってないので、その数値で良いと思う。

3番目の不足額の問題だが、今回の統合にあたって一番大きいのは、それまで特別会計として福祉的な意味の水道として一般会計からの繰り入れをいただいてやっていた簡易水道と、公営企業としてやってきた上水道を一緒にして、今度は公営企業としてやるわけなので、その辺の区分がなくなって最終的には利用者の負担というか、利用料集金で賄っていくという大原則でいくという中では、先ほど言われた足らず部分は当時の試算通りだと思うが、それ以降の経営改善の中で例えば、人員の問題ももちろんだし、資産処分の問題といったものも上げていたと思うので、それらも少しずつ進めて、なかなかそのとおりにならない部分もあろうかと思うが、考え方はそこで少し圧縮できた部分と、その時に見込んでいた高料金対策の地方財政措置というのはなくなる前提で最初に試算をして、投資の時もあったので、それについては継続いただく前提で今回答申をいただく……最初の試算は50とか60とかいう高い数字だったのが、経営改善等によって40パーセント前後、更に高料金対策が継続されるために約10パーセント前後落ちる流れで、今回は数値を算定している。

西村委員	<p>だいたい解った。1点私が気になっているのが、対市民との関係で言う時に、私は基本的にこの簡易水道の上水への統合というのは、要するに国策なのだ。浜田市が独自の施策でやっているわけではなく、やらざるを得ないように国が持っていたということなので、そのために値上げせざるを得ないわけなので、そこはきちんと市民に説明した方が良くと思う。何故そうなるのか、国が原因なのだ。だからそこは収支が悪くなって値上げするのではない。事実が事実としてきちんと説明することは、非常に重要だと思う。どう説明されるのかは私はよく分からないが、絶対に欠かしてはならない視点だと思うので、敢えてそのことは申し上げておきたい。</p>
管理課長	<p>今回、上水道と簡易水道も2つある中で、上がる所もあれば若干下がる所もあるし、その説明をしていく中で、きちんと理解してもらえように資料を作って説明していくのが一番大事だと思っている。西村委員からご指示いただいた、「国の施策として」というのは、きちんと説明していかなければいけないと思っている。十分留意して取り組んでいきたい。</p>
柳楽委員長	<p>1つ確認させていただきたいのだが、西村委員の方から資料提供のお話があって、今後考えていただけるような応答だったと思うのだが、それは12月定例会の時にということか。</p>
管理課長	<p>その時にご提示したいと思う。</p>
柳楽委員長	<p>それでは他に無いようなので、引き続き行わせていただいてよろしいか。</p> <p>(「はい」という声あり)</p>

(4) 平成28年度末汚水処理人口普及率

柳楽委員長	この件について、上下水道部下水道課長。
下水道課長	(以下、資料をもとに説明)
柳楽委員長	委員から質疑は。
	(「なし」という声あり)
	それでは、この件を終了する。

(5) その他

柳楽委員長	その他、執行部から何かあれば。子育て支援課長。
子育て支援課長	子育て支援課から2点ほど経過報告をさせていただく。

1 点目が病児・病後児保育に関して。現在、病児保育室は休止状態になっており、市民の皆さまに大変ご迷惑をかけている。昨日、今現在やっただいていいる医院と最終的に話し合い、1 月の再開に向けて調整を進めていくということになっている。今から保育士の確保等色々な調整が要るが、何とか1 月再開を目指して市も一緒になってやっていきたいと思っている。

また2 点目で補助金返還の関係については、今現在こちらから疑義照会をしたことに対する国からの回答について、再度質問を投げかけている状況なので、これについてはまだ結論が出ていない。ご理解をいただきたい。病児・病後児保育に関する進捗は以上。

もう1 点、放課後児童クラブについて。今年度、石見小学校の放課後児童クラブに4 年生以降の子どもさんが入所できない事態があり、議員の皆さまにもご心配をおかけした。このたび第3 学級を作るということで、方針は第3 学級を増やすことで固まっている。ただこれについては市長も石見小学校へ出向いて検討したが、小学校の校内では難しいという判断に至っている。なので現在、近辺15 か所の公共施設または私的施設も含めて15 か所に、使わせてもらえないか、使わせてもらえとしたらどんなメリット・デメリットがあるかを洗い出ししている。併せて校庭への新設も含めて、その中で最終判断を近いうちにして、12 月議会に補正予算と共に状況報告をさせていただけると思うので、その2 点を中間報告として口頭説明させていただいた。

質問は。澁谷委員。

1 点目の病後児保育については、選挙前の全員協議会の時にお伝えしたと思うが、決算委員会で前木部長は、斎藤医院さんとの病後児保育については、浜田市の要綱との契約であると明言されている。ということは斎藤先生には法的に全くの非がないことになる。それにも拘らず、斎藤先生の名誉回復は全然図られていない。その時は、国からの補助金のことがどうなるか分からない、それまでに斎藤先生は浜田市の要綱とは違って国の要綱も確認しながら対応されているので、ほとんど問題がなかったというような説明があった。返還金についても、3000 万円の返還の可能性はないと言われていたのが、いやいやそうではないと。厚生労働省は、きちんとした看護師さんは2 階の部屋にいないといけないという指摘がきている。それがおかしいということで、今再度確認しているわけだろう。ではいつになって新聞報道で、

柳楽委員長
澁谷委員

誤解を招いたことを発表されるのか。斎藤先生は全く法的に問題がないのを、部長は決算委員会ではっきり言われたのに、なぜ、全て浜田市の責任だと、誤解を招いたこと大変迷惑をかけたこと、何故発表されないのか。お尋ねしたい。

健康福祉部長

いまの点については10月3日の議会全員協議会の中で、市長からご説明をさせていただいたように、最終的には国の法令解釈の部分、いわゆる補助金の部分がはっきり決まってから、明確になった段階で何等かの対応をさせていただきたいとご説明、あるいはご報告させていただいている。まだその辺が明確になってないので、今言われたようなところに至っていない。

澁谷委員

ということは、これから何ヶ月経っても国からの結論が出ない以上は、何の対応もしないということか。

健康福祉部長

期間はどうか分からないが、国の意向が明確になってからというのが市長の考えだ。

澁谷委員

それでどんどん斎藤先生にご迷惑をかけておきながら、1月に再開をお願いするというのが、私は全く理解できないのだけでも。人道に外れているのではないか、行政として。

健康福祉部長

浜田市と斎藤先生とは、ずっと信頼関係を築いた状態である。斎藤先生と色々お話をさせていただいているが、病児保育をやるにあたってはやはり、お医者さんがそばにいるのは預ける側としては非常に安心なので、私どもが考えているのは斎藤先生の所でやっていただくのが、子どもにとって一番良いだろうと思っている。信頼関係、これまでの実績13年間に及ぶ部分もあるので、そういった所で斎藤先生に以前から再開についてお願いしており、ようやく来年1月から再開しても良いかというお話をいただいたというご報告だ。

澁谷委員

前木部長は信頼関係は崩れてないと言うが、信頼関係が崩れてないのに、何故斎藤先生はこの福祉環境委員会の場に來たのか。そして何故あれほどお怒りになったのか。執行部や市長に言えば良いことを、敢えて議会のこの場で言われたのは、それなりの理由がある。執行部では対応できないから議会の皆さん聞いてくださいということと言われたのではないのか。

健康福祉部長

斎藤先生が本当はどういうお気持ちだったかは正直分からないが、あくまでも一方的な記事を出されたことに非常に憤りを持っておられたのは事実なので、それについて恐らく私どもだけではなく皆さんに

も訴えたかったのではないかと感じている。先生の真意のところは、正直、把握はしていない。

澁谷委員

よく分からないが、把握していないのに何故信頼関係が崩れていないと断言できるのか。

健康福祉部長

ここに来て福祉環境委員会の前に説明された真意については把握していないという意味。これまで何度も先生とお話を続けているが、その中でも十分、私も当然信頼しているし、先生からも信頼していると感じている。

柳楽委員長

田畑委員。

田畑委員

法改正があつて、それを斎藤先生が先に知ったら当然浜田市も知っているのだろうが、どこでボタンをかけ間違えたからこんなことになったのかという、事実はどうだったのかというのを知らない、ああでもないこうでもないと言っているだけでは仕方ない。事実はどうなのか。時系列で出た時に。それらを全然示さないうちに新聞報道があつたとか、先生がえらく怒っておられるとか、そんなことはない補助金返還する必要はないと言いつつも補正予算でいくらか金額を上げて、議会も認めているわけだろう。だったら本当に、この件に関する真実、本当のことは何だったのかを、全然言われないと分からない。1月に再開いただくなれば、信頼関係が崩れているとは思えないような気もするし。この件の担当者責める意味ではなく、こういった間違いが再度ないようにするためには、真実を明らかにして、再発を防止する考え方をしていかなければ。今は担当課長が変わったからそれと呼んできてとっちめるというのではなく。やはり危機感が足りない部分があつたと思う。それは何故なのか、どうなのかという、真実を全然話さないうちにああだこうだと言っても仕方がない。この件に関する時系列を追って、ここで間違いがあつたということは、追及するのではなく間違いは間違いで認めて、再発防止することを考えていかなければ、もっと色々な大きな問題が出てくる。それは福祉ばかりではなく産業の話もあるだろうが、責任を追及する場ではなく再発防止する。間違いはあるかもしれないが、早く気づいて早く修正するという考え方を持たないと。この話をずっとしていても同じだ。真実は真実で議会にも斎藤先生にもはっきり話をしないと。何かわけのわからない話ばかりで、何年経っても、1時になってもこれは終わらない。だから真実をはっきり伝えてくれ。

健康福祉部長

真実は伝えていると思っている。

（ 「貴方がそう思っているだけでこちらは全然分からない」という声あり ）

まず市の要綱改正が漏れていたことについては事実である。これは言い訳できない部分である、それがまず1点。それと、昨年12月に市民から「国の基準を満たしてない」という通報があったので調査に行った。そこで聞き取った内容なり、そこでの報告が間違っていたということがあったのだが、最終的には副市長と8月に行って、改めて聞き取り調査をして、これまでの、2人配置でやっていたところを確認してきた。ただ、国の要綱の解釈の部分で、私どもはそういうやり方が正しかったと考えているが、解釈の仕方によってはそれはやはり不十分だと言える部分もあるので、実態はこうだったというところを国に伝えて、最終的に国に判断をしていただいている状況である。これが真実というか、現状の話。

柳楽委員長

西村委員。

西村委員

1月再開に向けて調整を図っている点はよく分かったのでそれは良いのだが、補助金返還の件については先ほどの報告だと、国から回答があって、それを受けて協議中だという中身だったと思う。どういう回答だったのか、出来ればお知らせいただきたい。

子育て支援課長

こちらの方としては、先ほど「解釈の違いがあった」と部長が申したように、常駐ということではなくその院の中に配置されていれば、これは26年度までの話だが、配置されていれば、こちんまりした医院の中ですぐに駆け付けられる状況にあれば看護師は常駐という解釈ではなかったのだが、国はそこはやはり遑って、元々保育スペースに居ないといけないというつもりだったと回答してきているので、それについてはそういったことは市には何も書面で知らされていなかったもので、常駐という言葉が出てきたのは27年度以降の話ではないかと。それまでは配置であって、それもそのスペースの中に絶対ずっと居なければいけないということは国は言っておられないではないか、ということを再度お伝えしているところ。ただ、それに併せて県も今、斎藤医院がこちんまりした医院で、私も今回担当になって見に行った。2階で外から見える、全部が透明ガラスになっていて、外を看護師さんが通っただけで、その前が看護師さんの休憩室になっているのだが、横が点滴等をする処置室なのだが、看護師がそこを通られるだけで、

わざわざ戸を開けなくても見通せる、そういう本当に恵まれた保育室になっていたし、そこには電話もあって、何かあればすぐ電話すれば下から看護師さんが駆けつける、医者も駆けつけられる、本当に動線的にも短い中でやっておられることも併せて、国に再度。だからそういう所なので、こちらの解釈としてはそれも看護師配置は満たしていたと解釈すると伝えている。それがまだ、こちらから送り出したところなので、その回答はまだもらっていない。

西村委員

ということは、常駐とか配置の点の表現は、改正の中で表現自体が変わったのか。27年度から「常駐」という言葉が出てきたのか。

子育て支援課長

そのように理解している。先ほどから委員も言われているように、これは市と国の補助金の問題であり、あんず保育所さんにおかれては本当に、市民の子育て家族の皆さんの安心安全に繋がる事業を14年間ずっとやってきていただいて、1件も保護者からのクレームや苦情等も聞いていないし、私も行ったら1人の子どもの台帳を作って、その日にどんな状況だったかのお知らせカードもしっかり入れて、50音順に並べている、今月利用した人は台帳にきちんとしておられるのを見て、逆に頭が下がる。このように子どもたちのことを14年間守ってくださっていたのだと思うと、本当にこちらの方が感謝の気持ちで一杯になったところ。そこは是非、議員の皆さんも分かっていたきたいと思う。

西村委員

答弁聞きながらちょっと感じたが、やはりちょっと国のこれまでの経過の中で、国から出た病児・病後児保育に係る書類を、参考資料として提供をお願いしたいと思う。諮ってもらえれば。

柳楽委員長

はい。西村委員から、国からの要綱に関する資料を出していただきたいという意見があった。委員の皆さんいかがか。

(「はい」という声あり)

それでは資料提供をよろしく願います。レターケースに配布をお願いします。

健康福祉部長

準備が出来次第届ける。

柳楽委員長

その他。澁谷委員。

澁谷委員

2点目の石見小学校の放課後児童クラブの第3学級を作るという説明だが、これは9月の同僚議員の質問の時の答弁と、わずか短時間で変更になっている気がする。その点はどうなのか。

健康福祉部長

新しく作ることも選択肢の1つとして加えたという報告をさせてい

ただいていると思うので、特に短時間で大きく変わったということはないかと思っている。

澁谷委員

それは足立さんの質問か。どこでそれを言っているのか、20 億どこですか。

健康福祉部長

はっきり覚えておらず申し訳ないが、森谷さんだったような……委員会だったか決算だったか、はっきり覚えていない。委員会だったような……はっきり覚えていない申し訳ない。

ただ、新しく作るとは決めたわけではないので、既存施設を活用すること、どれが一番良いやり方かを研究しているところ。

澁谷委員

石見小学校には、この常任委員会でも現地を視察して、かなり窮屈な部屋を2つやって、1人あたりの面積も狭くて、担当の方たちも非常に、「怪我の危険性もあります」というご指摘もあって、その辺のことを、それと5、6年生の受け入れをカットしたこともあって、声が出ていると思う。それを言う時に対して人口の今後の生徒数が減ってくる中で簡単に増やすのはどうなのかという答弁だった印象を持っている。その時に、作ることを選択肢であるという前向きな答弁をされていた記憶が部長にはあるということか。

健康福祉部長

西村委員の一般質問の中では、新しく作るということは一切言っていないと思うが、確か委員会だったと思うが、そういった選択肢に加えたというようなことを申し上げさせていただいた記憶がある。

柳楽委員長

その他に。

(「なし」という声あり)

この件以外でその他に。芦谷委員。

芦谷委員

その他だが、12年ぶりに診療報酬、介護報酬が変わる。予算要求の大事な時期。従って介護保険事業計画の策定最中だと思うのだが、そういった介護や医療に関わる今頃の方針、こういったことが示してもらえないのか、伺う。

健康福祉部長

30年度は確かに医療と介護について、国が今見直しをしておられると思う。特に介護保険の関係について広域で第7期計画を策定中であり、確か今月の終わりくらいに広域の議会も開催されて、その中でどこまで具体的に示されるか分からないが、そういった中で色々お話がある予定だと聞いている。なのでそういったところが終わってから、また情報をいただいて、必要なことは皆さまにご提供させていただくことになるのかなと思っている。

芦谷委員

要望なのだが、だいたいがいつも固まって、市民の付託を受けた議会の意見反映をする余地がないということがまあある。従って、もう少し前にそういうことは示していただいて、出来ればこういった委員会でも議論が発表出来る場が欲しい。

地域福祉課長

もう 1 点。29 年度末に色んな福祉関係の計画の終期を迎えるのがたくさんあったと思う。そういった色んな計画も 29 年度に終わりの期限を迎える。その他計画についての策定状況についてを伺う。

芦谷委員

もうじき期限を迎えるものはいくつかある。今、計画策定中であり、部内でもそれぞれのセクションで策定協議中である。執行部としては策定状況について中間報告という形で、12 月議会に間に合うかどうか分からないが、どこかのタイミングでお示ししていきたい。

どうしても後追い後追いで、切羽詰まって出てくる。従って色んな意見反映が出来にくい場面がたくさんあったと思う。従って、大変だろうがなるべく早めに出していただいて、考え方や柱を示していただいて、ここで議論するようにして欲しい。

柳楽委員長

その他に。

(「なし」という声あり)

すみません私から。国保の広域化の件で資料請求を先ほどされていたのだが、確認をしなかったのだが、資料提供は大丈夫か。

医療保険課長

県に確認したら、資料の提供は控えさせて欲しいという回答があったが、全体の数字についてはこちらが持っているので、事業納付金の県全体の数字はここで口頭で言っても良いということだった。

西村委員

県全体の数字ということか。

医療保険課長

はい。まだ試算段階であり今後も動く数字があるので。

西村委員

そんなことは前提ではないか。信じられない。

柳楽委員長

それはそんなに長く説明があるものではないのか。

医療保険課長

いえ数字だけならここで、全体の数字は。

(「ペーパーはないのか」という声あり)

医療保険課長

今回お知らせした裏面の、事業費の一番下のところ。これは浜田市の納付金だけになっているが、県全体で言うと医療分が 123 億 3500 万ほど、支援金分が 44 億 2590 万ほど。介護分が 16 億 8170 万ほど。トータルで 184 億 4290 万、という数字を、色んな数字を入れて案分して浜田市の事業納付金をこのように出している。

柳楽委員長

他に。

(「なし」という声あり)

今調査会の報告事項について、全員協議会で提出して説明すべきもの、あるいは資料配布のみとするもの、提出の必要はないとするものについて、執行部からご意見をいただきたい。地域福祉課長。

地域福祉課長

番号で申し上げる。

(1) 資料配布のうえ説明

(2) 資料配布のみ

(3) 資料配布のうえ説明

(4) 資料配布のみ

以上の提案について、委員から意見は。

(「なし」という声あり)

はい。ではそのようによろしく願います。

柳楽委員長

以上で調査会を終了する。

[12 時 40 分 閉議]

浜田市議会調査会規程第6条の規定により、ここに調査会記録を作成する。

福祉環境委員長 柳 楽 真 智 子